

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570909416		
法人名	有限会社くおん (A棟)		
事業所名	グループホームくおん		
所在地	秋田県鹿角市八幡平字堰の下108番地		
自己評価作成日	令和元年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和元年10月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春夏秋冬 季節を目で肌で感じ取れる自然豊かな環境にあります。日々ゆったりと一日が過ぎるような雰囲気の中で安心して過ごして頂くよう努めております。  
 ・冬が長いので陽が出る日は出来るだけ外で、日光浴、外気浴を行っています。  
 (目の前の田んぼの様子や作業内容を見て、目で季節を感じる事が出来る。また、外気に触れることで肌でも季節を感じる事が出来る。自然を目にすることで、昔話をしたり会話の糸口になったりしている。)  
 ・入居者さんの重度化が進んでいる状況で、入居者さんとそのご家族さんの安心に繋がるように訪問歯科、訪問マッサージなどの外部からのお力添えを頂いている。  
 ・遠方で開催の研修会へ参加するには人員的、時間的、資金的に限りがある為、かつの厚生病院、市、包括支援センター主催の近隣の研修会には、時間外手当を出し多くの職員から積極的に参加してもらっています。もちろん職員の資格取得に向けてバックアップをしております。  
 (スタッフ半数以上が介護福祉士資格取得しております。)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日光浴をしながら散歩をしたり、室内の歩行訓練とお尻歩きで下肢筋力低下を予防し、日記や訪問販売の支払い計算を認知機能維持として、一人ひとりの有する能力に応じて取り組んでいる。利用者の希望や思いに寄り添い、耳を傾け、願いを叶え、利用者が自分らしく、いつまでも生き生きと暮らしていくための支援を実践している。勤務形態を介護職員のほとんどが介護福祉士の資格を有しており、専門知識と技術がケアの質の向上につながっている。勤務形態を問わず一日の仕事を協力して完結できるように、職員間でフォローする体制が整っており、チームワークがいい。勤続年数が長く、職員の入れ替わりが少ないので、マンネリ化にならないよう常に新しい情報にアンテナを張り、様々な人からの意見を受け入れ、成長していきたいという思いで毎年外部評価を受けている。保育園児や中・高校生との交流、老人クラブの訪問等、世代間交流が活発である。地域住民と散歩であいさつを交わしたり、野菜等をいただいたり、町内会運動会に参加する等、顔の見える関係性が築かれ、地域に暮らす一員として、豊かな暮らしがこの事業所にある。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「ゆとり いたわり 思いやり」を年度初めに重点目標、事業計画など全員共有している。	開設当初からの理念は職員間で話し合い、理念を変更せず、より具体的に実践できるようにと、年度初めに毎月の重点目標を立てている。月末にスタッフ会議で振り返りをしている。ちなみに11月の目標は笑顔である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の一人としての自覚を持って、色んな行事や地域のお店の方と交流している。	町内会や保育園の運動会に出かけたり、ホームに保育園児や中、高校生が歌の披露やボランティアで訪問している。パン屋の訪問販売、地域住民からの野菜やタオル等の差し入れや散歩の機会に積極的に挨拶を交わし、顔の見える関係づくりに努めている。外に出た利用者を発見し、連絡をくれたことがあり、地域住民の一人として地域に暮らすことが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	推進会議に地域の方から参加してもらい協力してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	色々な方から意見を聞き、その意見を踏まえサービス向上に向けスタッフは頑張っている。	利用者入居状況や行事報告にとどまらず、働き方改革に伴う対応や転倒事故のリスク、感染対策、利用者の食事について等多岐にわたり、具体的な課題共有と課題に向けた活発な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が密に相談しアドバイスを頂いている。	介護報酬における加算や申請書類で不明な点を相談する等密に連携が図られている。市職員から何がわからないか等、積極的に事業所と関わりを持ち、一緒に取り組んでいる姿勢がうかがえる。また市や地域包括支援センター主催の研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	くおんとしての身体拘束等行動制限についての取り扱いに基づき出来る限りしないケアに取り組んでいる。	管理者、サプリーダーが中心の代表会でヒヤリハットやマニュアル等を検討し、3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催している。病院主催の研修会に参加し、復命勉強会も開催している。就寝中の利用者に排泄ケアのために声をかけるのはどうか等、より実践的な内容を中心に話し合い、職員の共通認識を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の開催はもちろん、月1回のスタッフ会議、ユニット会議、日々の申し送りで話し合い注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これからは増えていくと思いますので、スタッフとしては勉強会での知識を得ることが重要と考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、ご本人、ご家族さんへの説明を行い、実際に来訪して頂き、納得してから申し込み頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口がある事をご家族さんへ伝えている。	利用者の希望や目標を毎月聴き、実行している。介護計画に家族が意見を記入する欄を設けており、面会時や遠方の家族にはFAXで毎月意見等を聴く努力をしている。年1回家族会が開催され、今年度は食費や利用料金の説明をし、家族からの意見や要望を引き出せるよう場面づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの希望、意見はいつでも(スタッフ会議、親睦会、毎日の申し送り)気軽に言えていると思う。	毎日の申し送りの後や職員会議の他、春、秋の親睦会もあり、日常的に職員が意見を言いやすい環境にある。スライディングボードや褥瘡予防としてエアマット等の介護用品の購入は職員の意見が反映されていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得には協力を頂いている。社労士と話し合う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会、研修会の参加する為、バックアップして頂いている。参加した方はスタッフ会議で報告し情報を共有する様に努めている。近隣で開催する研修会には、出来るだけ多くのスタッフが参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内でグループホーム連絡会を設けて、毎月の計画を立て研修会や情報交換を行っている。市内開催のグループホーム発表会で良かった点は積極的に取り入れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を構築するには、努力と時間が必要だと思う。入浴時など1対1の時間を大切に、何気ない会話を重要としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月の介護計画の説明、受診の報告時、ご家族さんの希望を聞いている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り会話をする時間を設け、同じ時間を共有しお互いが理解できるように努力している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居したからではなく、出来るだけご家族さんとの時間を多く過ごして頂けるように支援している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に行っていた老人会、墓参り、お寺参りなどの支援をしている。友人、親戚、兄弟などいつでも会いに来て頂けるように環境を作っている。	昔から続けている針子をやったり、自宅地区の老人会や「ばっちゃん会」と称する集まりに参加したり、友人が面会に来たりしている。誰しもが、家に対し思いがあり、「お家訪問」で年2回自宅へ外出支援を実施している。また、お盆とお正月にお墓参りに出かける等、これまで培ってきた暮らし方や習慣、人間関係を大切に支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士が過ごせる時間(体操、散歩、レク、外気浴)を設け、入居者同士のコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出先で、声を掛けられたり、掛けたり、近況を聞く時がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎回お茶の時間に思いを聞いている。コミュニケーションを取りながら話やすい状況を作り希望に添うようにしている。それをケアプランに反映させ実行できるようにしています。	日常の何気ない会話や入浴の機会に、希望や目標を聴き、毎月一覧表にし掲示している。ラーメンを食べたい、家に行きたい等、実行可能なことは早めに対応している。また家族に報告し、利用者の思いについて情報共有を図っている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族さんが分かる範囲で情報を聞いている。また、入居してからの会話から得る情報も大切にしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、カンファレンスでスタッフの情報の共有をしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族さん面会時など希望を聞き、月1回のカンファレンスを行っている。	介護計画を毎月立案し、家族から意見をいただき、職員の意見を参考に、ケアプランを作成している。どの職員が携わっても統一したケアが提供できるように、「入居者の様子と注意事項」に食事や入浴、夜間の対応等を記入し、一定の質を保てる仕組みを標準化している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のカンファレンスや状態の変化時には記録に残し、PDCAを大切にしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みがある場所に出掛け、回想法を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1年に2度は、ご家族さんからも受診に立ち会って頂いている。 スタッフは受診前にDrへ伝える事を話合います。	利用者や家族が希望する医療機関に職員が受診介助している。年2回は家族同行の受診とし、状態を把握できるように支援している。歯科往診は随時対応可能で、夜間でも診察してくれたことがあった。薬局は調剤薬の配達、内服変更時やリスクについて相談できる関係性にある。眼科への定期受診や訪問マッサージ等適切に医療を受けられる体制が整っている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化が見られた時は、状態をかかりつけ医に連絡し、緊急受診したり対応のアドバイスを貰っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	不安や心配を出来るだけ緩和出来るように心がけている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体的、精神的苦痛を軽減できる様に、主治医、訪問看護師のアドバイス受け、ご家族さんとの連携を密にして、その人らしくを大切にスタッフは手伝いをしました。	入居契約時に「重度化対応医療連携体制指針」をもとに重度化した場合の対応について、家族へ説明し、同意書へ署名、捺印をいただいている。状態に合わせて主治医、事業所、家族と話し合い、方向性の確認をしている。訪問診療可能な主治医の場合には看取った事例があった。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まずは、スタッフが落ち着いてパニックにならない様に心掛け、医療機関へアドバイスをいただく。それぞれの対応はマニュアルを基に、訓練を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	発生後の行動マニュアルを活かし総合訓練を行っている。マニュアルをスタッフ一人ひとりに配布している。	鹿角市福祉避難所の指定となっているため、地域住民が避難してくることを想定し、食料品等の備蓄は十分な量が確保されていた。年2回の避難訓練時には警察や地域住民も参加している。鹿角市応急手当普及員となっている社長が、職員に心肺蘇生法を指導している。緊急時に対応できるように防災ラジオが設置され、マニュアルは全職員に配布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修を開催し、一人ひとり入居者さんは違う事をスタッフが理解し接しているが、トイレ内でのプライバシー保護と転倒防止については何度もスタッフ間で協議しご家族さんの面会時にお話をさせて頂いております。	前回課題にあった重度化した利用者の排泄ケア場面で、転倒防止のための見守りがプライバシーを損なっているのではないかと考え、運営推進会議で検討したり、「入居者の様子と注意事項」に対応の仕方を記入する等、取り組んでいる。まだまだ自尊心に配慮したケアが出来るのではないかと模索している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動、行為に注意しながら希望などを聞き出せるような雰囲気作りを心掛けている。また、訪問販売を地域商店からやってもらい、自分で食べたい物を選定してもらっている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安心安全に生活して頂く事を前提に、入居者さんの価値観、ライフスタイル出来る限り受け入れている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で服を選定できる方は、自身で選んで頂いている。他の方に関しても、季節に合った服を2~3種類の中から選びやすい様に努めている。また、化粧を楽しまれている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自身で食事を摂れる様に支援しています。(過度な介助に注意しながら) 食べやすい大きさ、形、柔らかさ温度にして提供している。 当番を決めて食器拭き、片付けをスタッフと共に行う。 行事食やおやつにも工夫している。	利用者の半数以上が重度化している中で、職員で話し合いを重ね、冷凍介護食を導入した。利用者の力の発揮の場がなくなるないように、山菜の皮むきやじゃがいもを切る、おはぎ作り等利用者と共に、食卓に1品加えている。食事の開始は、あいさつ当番が号令をかけることになっており、役割の一つとなっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記録に残している。1度に一気に取らない様に時間を決めて摂って貰っている。個々の体調や主治医との指示を仰ぎながら行っている。 日々の食事がカロリー計算されている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方、介助が必要な方、見守りで出来る方とまちまちだが、毎食後に行っています。 必要な時には、訪問歯科で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立は日々の生活でポイントである為、プライバシーを尊重しながら一人ひとりの排泄チェックを記録に残し時間でトイレ誘導している。	要介護5となっても、トイレでの排泄を実践できるように状態に応じて、職員が2人で介助している。排泄チェック表を参考に、飲水量や利尿剤の服用も考慮しながら、誘導する時間を調整し、失敗しないように配慮している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操、散歩、座位になっての体操、レクを毎日行っている。腹部に力を入れる事が出来るように努めている。牛乳やヨーグルトを摂ってもらいながらも入浴時には腹部マッサージを行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調確認には十分に気を付けている。希望に添う様にしている。安心して気持ち良いと思える入浴を心掛けている。入浴後には水分補給をしてもらっている。	重度化しても湯舟につかれるよう、状態によっては職員が2人ないし3人介助に入ることもある。入浴拒否の場合は、時間をおき、職員を変え、または仲の良い利用者に誘ってもらい、一緒に入浴することもある。夏の暑い季節にはお風呂上りにジュースを飲んだり、スイカを食べたり水分補給をしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はメリハリのある活動を心掛け、心配事などは傾聴出来るだけストレスの無い様に努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の受診記録に処方箋をファイリングし、必ずスタッフは目を通す様に決めている。副作用なども頭に叩き込むようにしている。服薬は手渡しをして、口に入れるまで見守りする。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る人は役割が決まっている。今までの生活の中で得意な事を尊重している。 (衣類のボタン付け、山菜の調理、台所仕事など) 好みの飲み物やおやつを移動販売してもらい個々に購入している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、月初めに一人ひとりから希望や目標を聞いて出来るだけ希望に添う様にしている。ご家族や兄弟さんにも協力して頂く場合もある。	花輪で花見、八幡平の紅葉、コモッセ等へ外出をしている他、天気の良い日は午前、午後と日光浴目的で散歩に出かけており、短時間でも戸外へ出る機会があり、ストレス解消となっている。また一人ひとりの希望に沿った外出支援も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各週、地元の商店さんから訪問販売を行って頂き、パンやお菓子の購入を楽しんでいる。各自お金と袋を持ち自分で選びお金を支払い、お釣りの計算をしてもらっている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば受話器を手渡し、お話をされている。番号が分からない、電話の使い方が分からない方へは、お手伝いをさせて頂いている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱しない様に、トイレなど大きく表示している。中庭から季節の花を觀賞する事が出来る。また、ホーム内にも花を飾ったり冬にはコタツを小上がりに設置している。昨年度、新たに入居された方へのバックアップとして入居前の趣味を入居してから出来るような環境を整えた。	前回課題だった新規利用者が環境変化から不穏な状態となっていたことに対しては、人的環境を見直し、落ち着いて過ごせるようになり解決していた。昔の家をイメージしたリビングは天井が高く開放的で、畳の小上がりや和筆筒が昔懐かしい雰囲気である。窓から見える坪庭の景色は癒しの空間となっている。利用者の目の高さに合わせ、トイレの表示や日にちが大きく目に入りやすいようにTV前に設置していた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前、小上がり、食卓テーブルなど好きな場所で移動しながら過ごしている。そういった場所で、気の合う方同士、会話したり民謡などを聞いて過ごされている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、出来るだけ今まで使用していた布団等を持ち込んで頂き、今までの環境を再現するように努めている。	家族の写真や位牌、TV、布団、趣味の道具等思い思いになじみの物を持ち込んでいる。洗面台がついているので、手洗いや洗顔等行える環境にある。利用者の能力に合わせて、居室の掃除を職員と共に行っている。転倒予防のため、マットを設置しセンサーマットに頼らない環境作りをしていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLに合わせて、出来る事はお手伝いして頂く。		